

# 四季風

2016.9.8

山口市北部の山

あいに位置する仁

保地域は古くから

農業が営まれた地

で、歴史的には鎌

倉時代に平子重經

が地頭職として赴き、平子、

仁保、三浦と氏称を変えな

がら統治していた▼近代的

いなか社会の創造を続ける

仁保地域で今回、広島市南

区の仁保地区との交流が始

まり、住民友好訪問団約40

人が広島を訪れた▼きっか

けは「仁保」という地名。

広島の仁保地区から昨年、

郷土史会グループが地名の

由来調査のため山口の仁保

地区を訪れ、同じ領主が治

めていた歴史が分かった。

「地名を縁に交流できたら」

と住民同士で話し合い、昨

秋から今春にかけて相互の

特産物を紹介し合った上で

の訪問団だった▼広島の仁

保地区は広島湾に浮かぶ仁

保島だったが、江戸期の干

拓で陸続きに。大正期に仁

保村となり昭和初期に広島

市と合併。戦後の開発でマ

ツダの本社工場が隣接し、

人口約一方3千人の街にな

ったという▼一方の山口の

仁保地域は人口約3千人の

過疎化が進む農山村。同じ

地名ながら土地柄も人口規

模も対照的な地域の交流

は、住民レベルで進めてい

る点が意義深い▼11月には

今度は広島から訪問団があ

る予定。交流で生まれる元

気が地方創生のお手本にな

ってほしい。

(畑)